



「池戸 一成 後援会」会報 しぶがきつうしん 渋柿通信

夏号

発行日：平成 23 年 7 月

発行者：池戸一成後援会事務局

各務原市蘇原柿沢町 1-15

TEL：3 7 1 - 2 7 4 9

FAX：3 8 2 - 1 3 5 0

未曾有の大震災が発生して、4ヶ月が経ちました。いまだ進展が見えない災害地の復興支援。このところその復興を担当する元大臣の発言も非難されたところでした。新しく制定された復興基本法に「復興庁」創設がありますが、そのモデルは 88 年前の関東大震災で復興計画を立案した「帝都復興院」です。ただし、この時の復興院が機能したのは、力量ある後藤新平という政治家の存在があったからでしょう。

大正 12 年 9 月 1 日昼の関東大震災で東京には焼け野原が広がった。死者・行方不明者は 10 万 5 千人以上。震災被害が収まらない 2 日夜に山本権兵衛内閣が発足し、救援と復興の責任者となったのが内務相の後藤新平。この日、帰宅した後藤はただちに机に向かって復興策を書き上げた。この復興策の大胆さは「復旧」ではなく「復興」を掲げたことからわかる。12 日には、「復興」を掲げた詔書が発せられた。スピードが際だった。復興院発足（27 日）は震災から 1 カ月かからなかった。

今の日本国に必要なのは、形だけの組織や会議でなく、大胆さとスピード感をもった優れたリーダーに他ならないでしょう。

池戸 一成

日本は先頭を切って「脱原発」を目指すべき！

2010 年の世界の発電容量は、風力や太陽光などの再生可能エネルギーによる発電量が、原発の発電量を初めて逆転したそうです。（4 月 15 日：米シンクタンク「ワールドウオッチ研究所」報告書による。）

これまで、我が国の産業や人々の生活は、原子力発電所の恩恵を受けてきたことは事実です。しかしな

がら、世界のエネルギーは脱原発に向かっていきます。上記の報告書によると、福島第 1 原発事故の影響で廃炉になる原発が多くなり、新設も大幅には増えず、再生可能エネルギーとの差はさらに開くとみえています。これは、このところのドイツをはじめとする世界からの報道をみても明らかです。

「電力の地産地消」の時代がくる！？ 地域力の向上に期待！

「脱原発」を進めるには、原発で発電していた電力を他の方法で補わなくてはなりません。つまり、太陽光、風力や地熱などの「再生可能エネルギー」での発電量を増やさなければいけません。

これは、「地域で発電し、地域でその電力を使う」・・・いわゆる「電力の地産地消」の時代がくるということだと思います。

そして、原発の開発や建設は大手企業しかできませんが、「再生可能エネルギー」の分野は中小企業にもビジネスチャンスがあり、地域経済が活性化し、地域力の向上にもつながっていくと思います。

静岡県の今 6 月議会では、浜岡原発の全面停止を踏まえ、新エネルギーの導入促進策に 15 億円の

補正予算が提出されました。家庭への太陽光発電の助成、耕作放棄地を利用した太陽光発電の実験的な取り組み、小水力発電の導入などの予算です。静岡県は、これらの施策を通して、「これからは自然エネルギーの促進が必要である」とこの姿勢を示していると思います。それも、素晴らしいスピードで。岐阜県も見習わなくてははいけません。

岐阜県では中津川にリニアモーターカーの駅をつくることを検討していますが、人口減少に入った我が国がやるべき未来への投資は、リニアモーターカーでも高速道路でもなく、再生可能なエネルギーへの投資ではないでしょうか。

今後も市や県に働きかけていきたいです。

「浜岡原発停止」の判断は正しいのか！？

5月14日、浜岡原発が全面停止されたところですが、今回停止した浜岡原発3～5号機の原子炉内には合計2,400体の燃料集合体がいまも装着されたままで、現在も水温100度未満に管理をされています。

もし、何らかの事故で冷やすことができなくなれば、再び発熱して破損し、水素爆発などの原因となることは、今回の大震災で被災した東京電力福島第1原発が教えてくれています。

さらに使用済み燃料プールには廃炉となった1、2号機も含めた5機で合計6,625体もの燃料集合体が水中保管されており、さまざまな作業で生じた放射性廃棄物を詰めたドラム缶は3万4,810本、廃棄物貯蔵庫に保管してあるそうです。

浜岡原発にはこうした放射性物質を外部に漏らさないための施設や冷却用のポンプなどがあり、運転停止中も機能維持が行われます。1、2号機は2009年1月に運転を終了しましたが、2年以上経過した今も中央制御室が従来通り働き続け、運転員が廃炉前と同じ態勢で24時間勤務していらっしゃるそうです。

このように、浜岡原発は、「停止しているから安全」

ということでは決してないことを解説する専門家も少なくありません。それをあたかも「これで安全」とばかりに止めて見せたのは、管総理の浅はかなパフォーマンスに過ぎないのではないかな…。

原発はなくしていくべきです。しかし、私は、今回の浜岡原発の停止はすべきでなかったと思っています。今の日本から原発をなくすには年月がかかります。「これから10年かけて計画的になくす」ように進めなくてはなりません。

- ① まずは、今まで原発を推進してきたことが間違いであったことを認める。
- ② これから10年かけて脱原発を目指すことを宣言する。

この2つを行うのが政治だと思います。

そのような考え方のもと、6月議会で、「脱原発に対する考え」を市長に質問しました。新聞にも紹介されましたので、以下に掲載します。



新聞記事

【岐阜新聞】（平成23年6月22日）

市議会定例会は21日、前日に引き続き一般質問を行った。（中略）池戸議員が福島第1原発事故を受け、脱原発に対する森真市長の考えをたじた。森市長は「日本は10年計画で脱原発へ面かじを切るべき。脱原発の新しい文明を日本自ら発信する必要がある」との考えを鮮明に示した。

池戸議員が、森市長の理念や市の危機管理対策について質問。森市長は「日本は地震大国。原点に戻ってエネルギー政策を考えるべき」と指摘。世界の潮流が、自然エネルギーに向かっていることを踏まえ「日本が真っ先にやらねばならない」と述べた。さらに「国の政治は構想力が希薄している。今が脱原発の新しい文明をつくるチャンス」と強調した。

【中日新聞】（平成23年6月22日）

森市長は、池戸一成氏の一般質問に答え、原発を「産業革命以来の科学技術偏重の落とし子」と批判。「日本の総エネルギーに占める原発のシェアは25%前後で、10年計画で脱原発は可能。半分は自然エネルギーに転換できる」と持論を展開した。

隣の福井県には多数の原発が立地し、「伊吹おろしで、万が一事故があれば各務原だけでなく美濃地区全体に影響がある。」と指摘。

池戸氏が産業界と連携した独自の新たなエネルギー施策の検討を求めたのに対しては「勉強して参りたい」と応じた。

おがせ街道、一部が市道に

マックスバリュから関江南線までの県道が完成しましたが、これによって、おがせ街道の大島の交差点から関江南線が、県道から市道に変わります。

これは「県は『新しい県道』を面倒みますから、同じ区間のおがせ街道を市で面倒みてください」ということです。

本年度いっぱい、傷んでいる箇所は県に直し

てもらい、来期から市道になる予定です。

私個人的には、新しくできた県道は分離帯もあって「不便になった・・・」と感じています。岐阜市の競輪場までつながる予定の道ですが、孫の代までに完成できるかもわからない?!って感じみたいですが、こんなことなら、マックスバリュの北側の道を元に戻してほしいと思うのは、私だけでしょうか・・・。

『食育』各務原独自の大切なところみ

当市では、ここ 20 年、医師会と協力して小児生活習慣病予防を行ってきています。内容は、医師に小中学校で話をしていただき、小さいころから何を考えてものを食べなければいけないかという指導をするものです。

幼いころから身についた習慣は、大人になっても続いたり、一度やめても再び行えるようになっていたりしやすいそうです。

例えば、歯磨きの習慣も、幼いころにきちんと身につけていけば、一時期おざなりになっても、再びきちんとするようになりやすいそうです。歯に関しては、県内では山県市が、全小・中学校、全保育所（園）、幼稚園にてフッ化物洗口などを通じ、子供のころからの予防の教育が行われてお

り、全国や岐阜県の平均より虫歯が少ないようです。

今後必要になってくるといわれている『セルフメディケーション』（自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当てすること）が進む中で、このような食育の取り組みは、大切です。

「三つ子の魂百まで」も、医学的な分野で大切とされていることなのです。



コンピュータのソフト変更に 8,700 万円

我が国に入国・在留する外国人が年々増加していること等を背景に、『住民基本台帳法の一部を改正する法律』が H21 年国会で成立し、その年の 7 月 15 日に公布されました。

この法律で、外国人住民にも、日本人と同様に、『住民基本台帳法』の対象となり、住民票を発行することになりました。

このことによって、外国人住民の市役所などの手続きが日本人と同様になり、行政サービスを受ける外国人も与える役所も、利便性が増し、合理化がされるようになります。

つまり、国民健康保険や児童手当等の住民行政サービス、また保険料や税の徴収など、外国人住

民の『権利』と『義務』が正確に把握されるようになります。

しかしながら、この体制を整えるために、市ではコンピュータソフトの変更をしなくてはならず、8,700 万円を使います。おそらく後から地方交付税で国から措置されるでしょうが、正直、金額にビックリ！

現在、当市に在住の外国人は約 3,500 人。国際化が進んでいる中での仕方ないコストなのでしょうが、安全な街形成にも結び付くといいですね。





※写真は参考写真

災害時に頼もしいやつ

市で10tのタンク車を購入します。正式名は小型動力消防ポンプ付水槽車。価格は4,000万円。

5,000人の1日分の飲み水が運べます。

もしものための備えですが、結構かかりますな・・・

後援会からのお知らせ

①『夏まつり』～子供たち、集まれ！（渋柿隊主催）

日時:平成23年8月27日(土) 午後5時半～8時半まで

場所:高安(株)さん 南駐車場(蘇原村雨町3丁目)

※ 盆踊り、マジックショー、輪投げ、ストラックアウト、焼きそば、串かつ、ヨーヨー釣り、綿菓子、かき氷、ポップコーンなど

※ 雨天の場合、中止です。

※ 夏まつりの収益は、東日本大震災被災地への義援金などに使わせていただきます。



②秋のバーベキュー(渋柿隊主催)

秋の味覚をご用意。

日時:平成23年10月16日(日) 午前11時半より

場所:木曾川扶桑緑地公園キャンプ場(去年と同じ場所)

参加費:小学生以上 500円(小学生未満は無料)

※ 飲み物は別途販売をいたします。ご持参いただいても結構です。

※ 小学生の飲み物は、会費に含まれます。(ドリンクバー)

※ 雨天の場合、中止します。

※ なるべく事前にお申込みください。(会費は当日いただきます)



③秋の日帰り研修会(後援会主催)

風力発電所を見学し、ぶどう狩り。昼食は池戸友人の伊賀牛名店でスペシャルメニュー。赤目四十八滝も訪れます。(予定)

※ よりよいものにするために、現在も内容を検討中です。

日時:平成23年10月20日(木)

行先:風力発電所、青蓮寺湖ぶどう園、赤目四十八滝 他(予定)

参加費:7,500円(昼食代・保険代含む)

※ 参加費を添えてお申し込みください。

※ 定員になり次第締め切らせていただきます。



お申込み・お問合せは後援会まで。371-2749